

教科	国語	学年	2年
----	----	----	----

【教科の目標】

国語の諸活動として、長い文章の読解力、コミュニケーションやプレゼンテーション能力などについて理解し、その能力の獲得や定着を図っていく。また、古典や言語知識・文法の学習を重視し、日本の伝統文化や日本語に興味、関心を持って取り組める姿勢の育成を目指していく。

【使用教材・副教材・使用教室・指導形態】

- ・国語2（光村図書）
- ・よくわかる国語の学習2年（明治図書））国語の積み上げ2（明治図書）
- ・一斉授業
- ・20時間程度の書写活動（硬筆を含む）を行う。

【評価の観点と方法】

	評価規準	評価方法
知識・技能	音声、語句、語彙、文法、漢字などの国語に関する基礎的な事項・文学史・古典・漢文や、国語の特質について理解し、知識を身に付けている。楷書の書き方と行書の基礎的な書き方を理解し、字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気をつけて書く。	授業意欲（既習事項・既習学習事項以外の発言を含む） 文章構築・課題作文・漢字 定期考査
思考・判断・表現	多様な方法で材料を集め、自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、読みやすくわかりやすい文章を書く。様々な種類の文章を読み、文章の構成や展開をとらえて内容を的確に理解し、知識や体験と関連付けて自分の考えを持ち、発表する。	定期考査 作文・小論文 マッピング プレゼンテーション 文章構築 教室ディベート 文法・古文・漢文の応用 表現活動の内容
(粘り強く)主体的に学ぶに向かう態度	国語に対する関心を持ち、進んで話し合ったり書いたり、読書に親しむ態度を養う。プレゼンテーションに向けて、多様な方法で材料を集め、自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、読みやすくわかりやすい文章を書く。また暗誦テストや長文読解に向けて意欲的に取り組む	授業態度（発言を含む） 提出物の内容・漢字ノート 暗誦テスト・音読テスト 調べ学習（タブレット使用） 振り返りシート

【授業の進め方と学習のポイント】

- 授業の基本として、先生の話をよく聞き、考え、話したり書いたりすること。
- 発言や発表に進んで参加すること。
- 授業の中で行う漢字小テストや文法テストなどの小テストもしっかり取り組むこと。
- 提出物は期限を守って提出すること。
- 定期考査の前には、教科書を繰り返し読むことを基本として、自分のノートを照らし合わせ、授業の流れを確認する学習を行う。ワーク等、問題集を繰り返し学習する。

【家庭学習の進め方】

- ①一番大切なことは、学校の授業です。特に、心情把握は、根拠に基づいたものになるので、授業中での解説などの話をまとめてメモするなどの工夫を授業で行っておくことが大切です。また2年生では長文読解に慣れていきます。
- ②予習は、教科書を読んでくれることが大切です。2回ぐらい読めるとよいです。復習は授業内容の確認です。ノートを見ながら、どのようにして読解が進められたかを確認しましょう。
- ③漢字ノートは家庭学習の基礎です。毎日取り組みましょう。特に成績上は、決められた量だけをやるのではなく、意味調べをしたり、部首を書いたり、例文を書いたりなど、工夫のあるものにプラス点を挙げます。自分流の漢字ノートを作成しましょう。
- ④課題図書は、極力読みましょう。また、朝日新聞の天声人語などに目を通すこともお勧めです。国語が苦手な人はまずはコラムを読むことからはじめ、それが定着したら、そのコラムに対して、自分の考えをまとめ、短作文を書く練習をすると力が付きます。

【年間指導計画（国語140時間）】

	時間	単元名	学習のねらい
4	40	<p>《1》広がる学びへ 「見えないだけ」 「アイスプラネット」 言葉① 漢字①</p>	<p>作者の物の見方や感じ方をとらえ、声に出して読む 登場人物の気持ちを読み取る 声に出して読み、言葉の響きや調子を楽しむ。 熟語の構成を捉える 発言者の立場を踏まえ、それぞれの意見と根拠を整理してまとめることができる。 自立語の性質について理解する。 構成を工夫して自分の意見を相手に伝わりやすいように表現することができる。 現代語や注釈を活用し、作者のものの見方や考え方を捉えている。</p>
5		<p>「意見を聞き整理して検討する。」 「文法1」</p> <p>「魅力的な提案をしよう。」</p>	
6		<p>「枕草子」</p> <p>《2》多様な視点から 「クマゼミ増加の原因を探る」 「思考の視覚化」 「情報を整理して伝える。」</p>	
7		<p>《3》言葉と向き合う 「短歌に親しむ」 「短歌を味わう」</p> <p>「言葉の力」 「類義語・対義語・多義語」 「翻訳作品を読み比べよう」</p>	
9	70	<p>《4》人間のきずな 「ヒューマノイド」 「字のないはがき」</p> <p>「表現を工夫して書く」 「敬語」 「同じ訓・音をもつ漢字」</p>	<p>話や文章の構成や展開について理解を深める。 随筆の味わい方について考え、日常生活の読書に生かせそうな点について考えをまとめる。 相手や目的に応じて敬語を適切に使って書く。 敬語の働きについて理解し、文章の中で使うことができる。</p>
10		<p>《5》論理を超えて 「モアイは語る」 「適切な根拠を選んで書こう。」</p>	
11		<p>《6》いにしへの心を訪ねる 「音読を楽しもう 平家物語」 「扇の的」「仁和寺にある法師」 「漢詩の風景」</p>	
12		<p>《7》価値を知る 「君は最後の晩餐を知っているか」 「具体と抽象」 「用言の活用」 文法への扉③ 討論で視野を広げる ◎書き初め・硬筆</p>	
		<p>意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。 自分の意見を支える根拠を適切に選んで文章を書ける。 古典作品に描かれた主題を感じ取り、理解することができる。 独特の調子やリズムを意識して朗読することができる。 古典作品に表れたものの見方や考え方を捉えられる。</p>	
1	30	<p>《8》表現を見つめる 「走れメロス」</p>	<p>情景や心情の描写から主題を捉え、自己の考えをまとめる。 根拠を明らかにして、意見をまとめ、相手に考えを的確に伝える 助詞・助動詞の働きについて理解することができる。 表現の効果を考え、文章の展開を構想し、表現できる。 話し言葉と書き言葉の特徴を踏まえ、注意点を理解している。 送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりできる。</p>
2		<p>「付属語」 「描写を工夫して書く」 「話し言葉と書き言葉」 「送り仮名」</p>	
3		<p>「国語の学びを振り返ろう」</p>	
			<p>1年間の学びを振り返り、「学ぶ意義」についての文章を相手に伝わりやすいようにまとめることができる。</p>